

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2671200364		
法人名	株式会社ケアトラスト		
事業所名	グループホームメイプルリーフ宇治 (サンフラワー)		
所在地	京都府宇治市槇島町本屋敷10-1		
自己評価作成日	平成22年7月20日	評価結果市町村受理日	平成22年11月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.kyoshakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2671200364&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成22年9月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

支え合い、自立、開放、前向きの方針に基づき、利用者の意向にそったケアが、提供出来るように努めている。入居前の生活習慣が継続できるように支援している。(サークル活動、飲酒etc) 又月に1回は必ず外食レクを企画し、気分転換を図っている。ご家族を招待つての忘年会も開催している。ご家族の協力のもと終末期ケアにも取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

移転したハード面が整備され綺麗な新築の建物に、以前と同様に季節感を採り入れた、家庭的で自然光の落ち着いたりリビングを作り、利用者はゆったりと過ごしておられます。職員は明るく朗らかに利用者に接し、研修や勉強会の機会を多く設け、職員間のコミュニケーションやチームワークが良好で、会議では活発に意見や提案が出され、運営に反映されています。ユニットごとに毎月の外出は季節行事や遠方の日帰り旅行など多種多様に企画したり、個々の利用者の状況の違いに応じた個別の外出支援も充実しています。新しい地域との関わりはスタートの段階ですが、ホーム理念でもある「開放」「支えあい」に込められた想いを地域の方々に伝え、法人幹部や管理者を始め職員が気さくで前向きな姿勢を持ち、早い時期から交流に努めているホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作り上げている。誰にも目に付く場所に掲示している。	「前向き、開放、自立、支えあい」という事業所の理念を各ユニットごとのリビング等に掲示しています。新任職員には理念と方針を書面で渡し、意識付けを行っています。毎月の職員会議で理念に添ったケアがなされているか振り返り、実践につなげるよう努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	開設時に内覧会を実施。引っ越し後挨拶の実施	移転した新しい地域での付き合いが早い時期に構築されるよう、玄関を開放し、近隣の店への買い物や事業所主催の敬老会への声かけ、民生委員との関係づくりを行っています。地域の方から入所の相談、見学もあり、中学校の体験実習の受け入れを予定しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	移設をしたばかりなので、まだこの地域に向けては出来ていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、報告を行っておりその際たくさんのご意見をいただきサービスの向上に生かしている。	会議は、移転前の地域の住民の方々、地域包括支援センター職員、隣接の事業所の管理者、グループホーム職員をメンバーに、2カ月に1回開催されています。ホームの現状や外部評価の報告、質問や意見など双方向的な会議となっており、会議の議事録はだれでも見れるように玄関に置いています。	家族の参加が得られるよう、家族に議事録を見て頂きながら運営推進会議について説明し、一緒に参加してもらえよう声かけをされてみてはいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員の受け入れをしている。そこからの報告書を職員に回覧しサービスの向上に役立てている。	管理者は日頃から、市役所へ出向きパンフレットの配布や困難事例について相談したり、入所依頼などで連絡を取り合っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしない。言葉かけにも注意し実践している	「制限のない生活」を意識し、玄関、ベランダ、居室のテラス等も日常的に開放されています。職員は身体拘束についての研修や勉強会を定期的に行い、拘束の範囲の認識と理解、排除に繋がっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議等で学ぶ機会がある。虐待はないしてはならない		

グループホーム メイプルリーフ宇治（サンフラワー）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議時等で学ぶ機会がある。どんな場合でも虐待はしていないし、してはならない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解、納得していただけるよう十分な説明を行っている。また、いつでも疑問があれば、聞いて頂けるような雰囲気づくりに努力している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付をホーム内外に設けている。また、契約時に何でも相談できるように相談窓口の説明をしている。苦情処理の方法など明らかにし、運営に反映できるようにしている	苦情受付機関を明示し、面会時には希望や意見を多く聴きとるようにしています。日頃より意見を出しやすい雰囲気作りを行い、出された意見や要望について速やかに返答するようにしています。介護相談員が聞いた利用者の意見は報告書として受け取り、内容を職員に知らせています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	3ヶ月に一回の勉強会の来浅いで、職員からの意見提案を聞く機会を設けている	3カ月に1回の職員の勉強会で、意見や提案を聴いています。年2回設定する職員の個々の目標について自己評価を行ったり、年数回法人幹部と個別ヒアリングの機会を設けています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の能力状況に応じて職場環境、条件の整備には留意し、努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所からの外部研修参加はもちろん、研修案内を掲示し自主参加を促している。職員同士人間関係を良くする様に指導している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流する機会を設け、意見交換をする機会がある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接の機会を作り傾聴する		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様からのご相談時には、傾聴し、困っておられること、不安なこと、求めていることについて把握するようにしている。また共感をすることによって安心していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム入居が前提のご相談が多いので、すぐに入居できない場合は、ほかの提案もさせていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日とともに過ごす日常の中で、お互いの学ぶこと支えあうこと、喜怒哀楽を共にする関係を築けている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは、情報の共有、交換に努め、共に本人を支えていただけるようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人のなじみの方とは、電話や、手紙等で関係を続けていただけるように努めている。また訪問も随時来ていただける。	友人との手紙、電話のやりとり、習い事や墓参りなどの生活習慣の継続支援を行っています。馴染みのスーパーやお店に出かけたり、利用者の今までの関係を大切にしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しがちな利用者もいるが、職員が間に入り、関わり、また支えあえるような関係づくりに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も相談等にはのるようになっている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を取り入れ、本人からの情報収集をしている。	センター方式を使用して生活歴や習慣、好みなどの情報をもとに思いの把握に努めています。また、日々の生活の会話や言動から利用者の希望や意向の把握に繋げ、意思表示が難しい方は家族に聴いたり、表情や行動から汲み取るようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族を含めそれまでの生活歴や暮らし方についての把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間365日切れ目のない記録に努め情報の共有と交換し現状を把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時に、ご本人御家族の介護に対する意向を聞き、プランに反映している。ケース会議はもちろん家族、医師との情報の交換と共有することでよりよく暮らすためのケアのあり方に反映させている。	本人、家族からアセスメントした内容をケース会議で話し合い、主治医の意見もまじえて介護計画を作成しています。計画の実施状況は日々の日誌に番号を付けて連動され、毎月の達成状況は特記事項に記載し、評価を行い、現状に合った介護計画となるよう努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録に、毎日の様子やケース会議で決めたことを実践し、記入している。改善点など再びケース会議にて話し合い、情報の共有、見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況の変化、ニーズに素早く対応し、管理者等と話し合い柔軟に支援、サービス提供出来るように努めている		

グループホーム メイプルリーフ宇治（サンフラワー）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在地域資源を探している。出来るだけ、地域へ出て行けるよう考慮している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望している医療機関を利用している	入所時にホームの主治医以外のかかりつけ医の希望を聞き対応しています。受診結果は毎月報告をもらっています。ホームの主治医は緊急時の連絡が可能で看護師は24時間対応となっています。その他希望により、訪問歯科も受けることができるよう支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携をとっている、辰巳診療所にいつでも相談できるような体制になっている。又、併設している小規模多機能ホームの看護師に相談できる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、なるべく多くの情報の提供が出来るようにしている。早期退院に向けた支援は、認知症を抱えた高齢者にとって、その後の生活に影響が強いと考え、医師、家族とよく話し合いなるべく早く退院していただけるように支援している。又、地域医療連携室との連携も密にとるよう心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人家族ならびにかかりつけ医と、話し合い全員で方針が共有できるようにしている。また、本人にとって最良の方法を取れるよう支援している	ホームとしてのターミナル指針があり、入所時に家族に説明しています。重度化した場合は、ケース会議で話し合い、主治医、家族、ケアマネジャーも交えて、本人や家族の希望に添えるよう方向性を定め、共有できるようにしています。希望があればできる限りホームで支援したいと考えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法の受講をしているが、施設内で定期的には行っていない。しかしマニュアルは、作成してあり、それに沿って対応できるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な消防訓練を実施している。マニュアルを作成してある	年に2回消防署立ち合いのもと避難訓練を行い、職員はAEDや救命救急の講習も受講しています。今後は移転前同様に毎月の訓練実施を目標にし、地域への声かけも視野に入れる意向です。	運営推進会議で避難訓練を議題に取り上げ、地域の方に避難状況を知って頂き、協力依頼につなげて行かれてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の一人ひとりを敬い、失礼のない様に対応しているが、知らず知らずのうちに、失礼な対応になってしまっていることがある。 (言葉使い)	日頃より、利用者に対しての言葉遣いには充分配慮し、職員会議で繰り返し話し、新任職員には個別に指導しています。親しくなり不適切な対応があった時は、その都度注意するようにしています。トイレ誘導時はプライバシーを損ねない対応に気を配っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や、決定権を大切にしそれを引き出せるよう努めているが、気づかぬままに、職員本意の行動になってしまい支援していることがある		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に希望に沿って支援を行っているが、職員側の都合を押し付けているときもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴準備など職員のみで行ってしまっている事多い		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	何が食べたいか、利用者の方に聞き、食材の購入、食事の準備、片付けを行う。充分に行えていない事がある。	調理担当者が毎回利用者の好みを聴きながら献立を立てています。一緒に買い物に行ったり、家庭菜園の野菜を利用者と一緒に摘み、それを使ってできる方は下ごしらえから一緒に作っています。また、週2回魚屋が来た際は利用者と相談して調理法を決めています。職員も同じものを同じ食卓で摂り、楽しく食事できるよう配慮しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量、水分量に応じて栄養バランス等考えて支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	うがいやモーニングケア、ナイトケア時に口腔ケアを行い、また月2回の衛生士の口腔ケアを行っている		

グループホーム メイプルリーフ宇治（サンフラワー）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食事前、おやつ前のトイレ誘導。排泄パターンをつかむ為にリハビリパンツのチェックを行っているが完ぺきではない	日々の排泄チェック表にて個々の排泄パターンを把握し、タイミングを見てトイレ誘導を行っています。失敗が少なくなりオムツから紙パンツ、紙パンツから布パンツへ移行した方もおられ、自立に向けた支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材の工夫。主治医と相談し、便薬の処方、調整をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の曜日は決まっているが、体調、行事、状況に応じて変更可能	週3回曜日を決めて、自由な時間に入浴して頂いています。沐浴剤の使用や浴室で歌を唄ったり、職員と会話する時間を作り、入浴が楽しいものになるよう配慮しています。同性介助の希望にも対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠不足や、体調不良で傾眠月良い場合は、昼寝などをして頂き快適に過ごせるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬による変化などがあれば、必ず記録し、主治医に相談する。薬の目的、副作用を全ての職員が把握は出来ない		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の出来ること出来ない事を見極め、たうえで、役割や、楽しみを提供出来るよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の希望に沿った支援が出来るよう心掛けているが、自らの外出願望はあまり見られない。言葉かけによる、本人の希望を引き出すことが必要	日常的に買い物や夕涼みを兼ねて散歩に出ています。月1回ユニットごとに遠足を企画し、花見やフルーツ狩り、芋掘り、初詣などの季節の外出行事を行っています。また、海遊館や空港見学、伊勢日帰り旅行等遠方にも出かけています。更に銭湯や居酒屋、喫茶店などの個別の外出支援も行っています。	

グループホーム メイプルリーフ宇治（サンフラワー）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は、その方の能力に応じて家族と話し合い所持して頂き、使い方は、本人の希望に沿う		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも使用可能		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感、生活感が出るように工夫しゆっくりと過ごせるように心がけている	季節の花や共同作品、ベランダの家庭菜園で季節感を出し、素朴なテーブルやソファの使用で落ち着いた空間を作り、できるだけホールで過ごして頂けるよう工夫しています。家庭の雰囲気を大切に、日中は日当たりが良く蛍光灯ではなく窓の採光を利用することで、明るくなり過ぎないように配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間内で独りになれるような場所はないが、気の合った利用者同士は思い思いに過ごせる場所はある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の物は家族に用意して頂き、思い出の物も多い	各居室には可愛い表札が掛けられ、自室がわかりやすくしています。居室スペースは広く、テラスがあり明るく開放的な雰囲気になっています。長年使っていた家具や品物を持ち込んでもらい、作品や家族の写真等が飾られています。整理、清潔に配慮し、居心地よく過ごして頂けるように努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な環境づくりが出来るように気を付けている。しかし、それぞれの「できる事」「わかる事」を活かした工夫はまだほとんど出来ない		